

2.2.3. 被害状況の動向把握

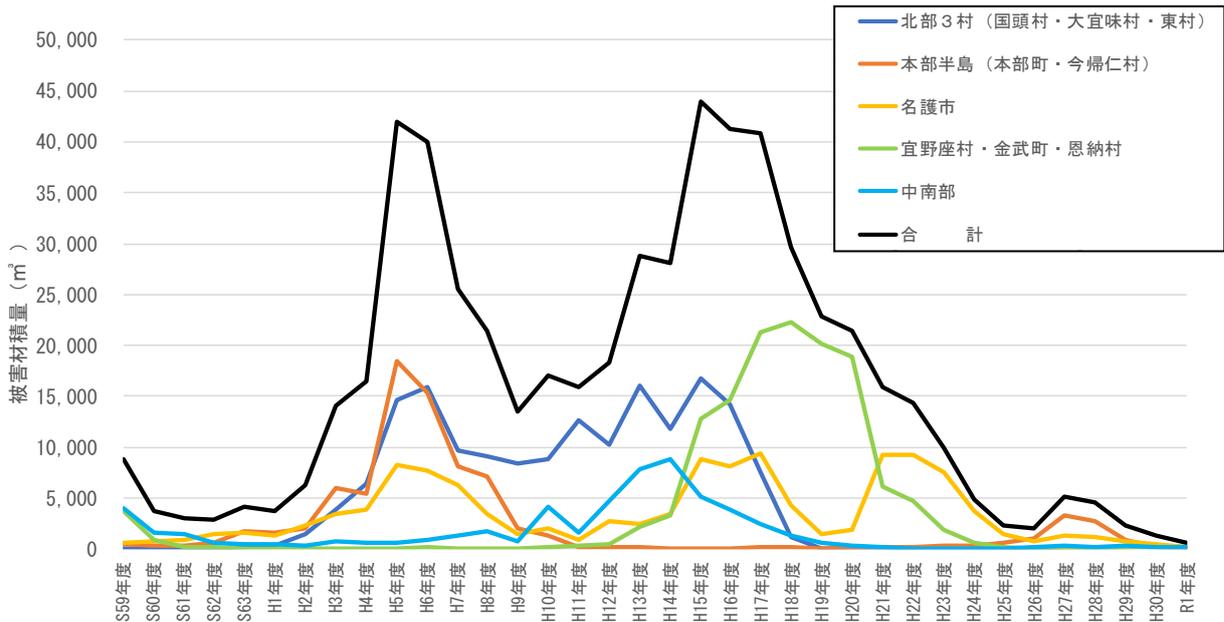
県全体での被害状況の動向を把握することによって、今後の被害予測及び施策方針検討に活かすことができることから、県全体及びエリアごとの被害状況の推移を整理することとした。

(1) 被害の推移

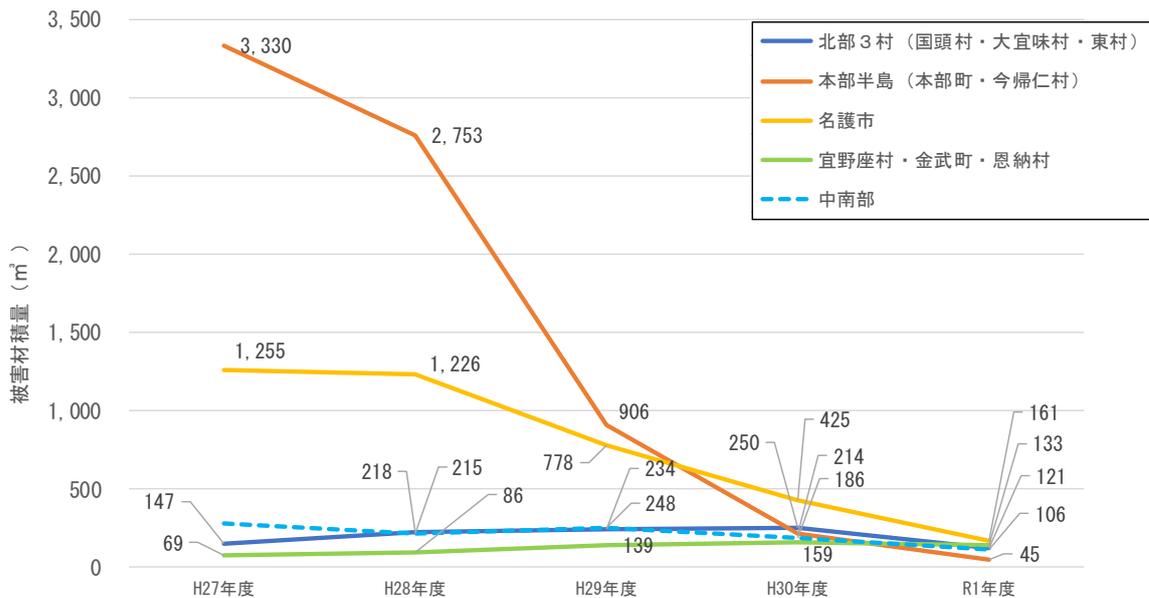
各年の被害材積量を集計図化して、全県的な被害動向を把握した。

県全体及びエリアごとの被害材積量の推移を図Ⅱ.2.2-7に示す。

また、直近5年間の推移を図Ⅱ.2.2-8に示す。



図Ⅱ.2.2-7 松くい虫被害材積量の推移 (S59～R1年) ※R1年は12月末時点



図Ⅱ.2.2-8 松くい虫被害材積量の推移 (H27～R1年) ※R1年は12月末時点

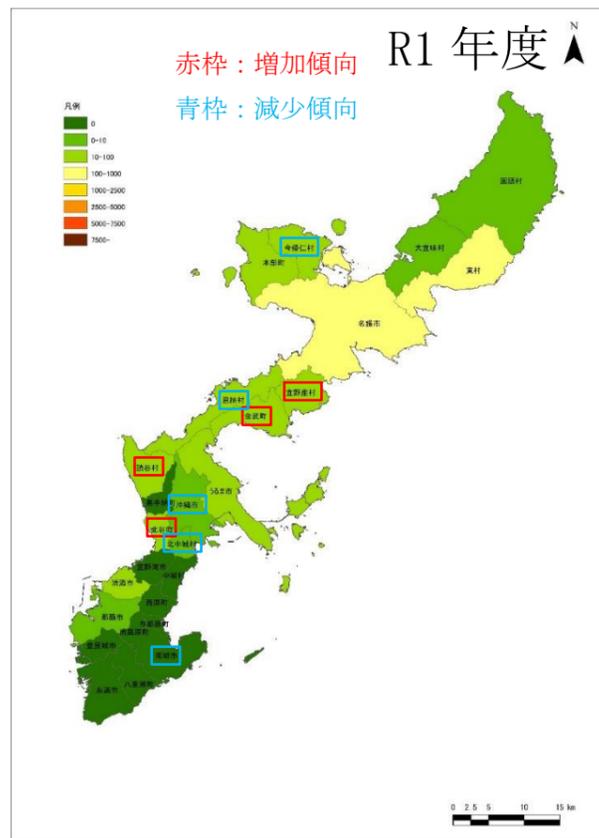
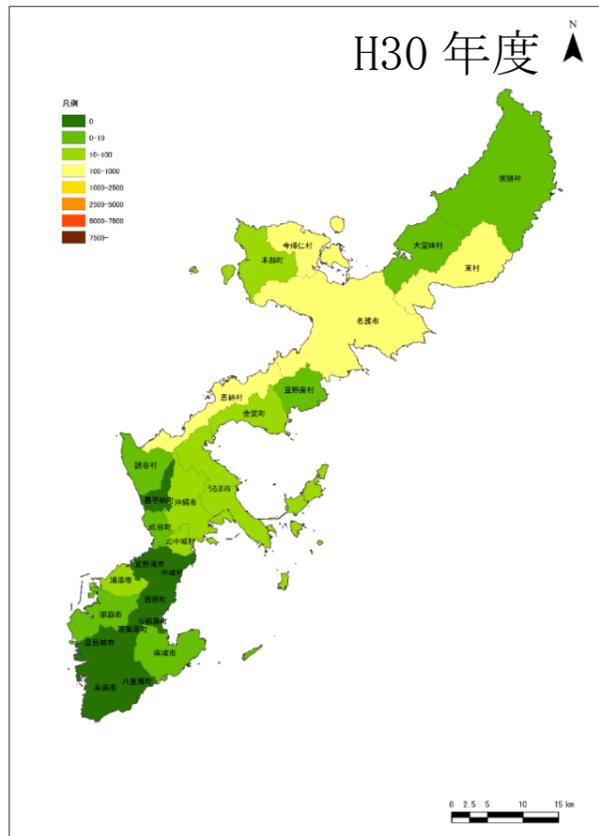
近年では、平成 27～28 年度をピークとして本部半島の被害材積量が急増したが、平成 29～令和元年度は減少し、収束に向かっている。北部 3 村では平成 27～30 年度まで微増傾向が見られていたが、令和元年度は減少した。他の地域も被害材積量は減少傾向にあり、県全体の被害材積量は減少傾向にある。

(2) 昨年度からの推移

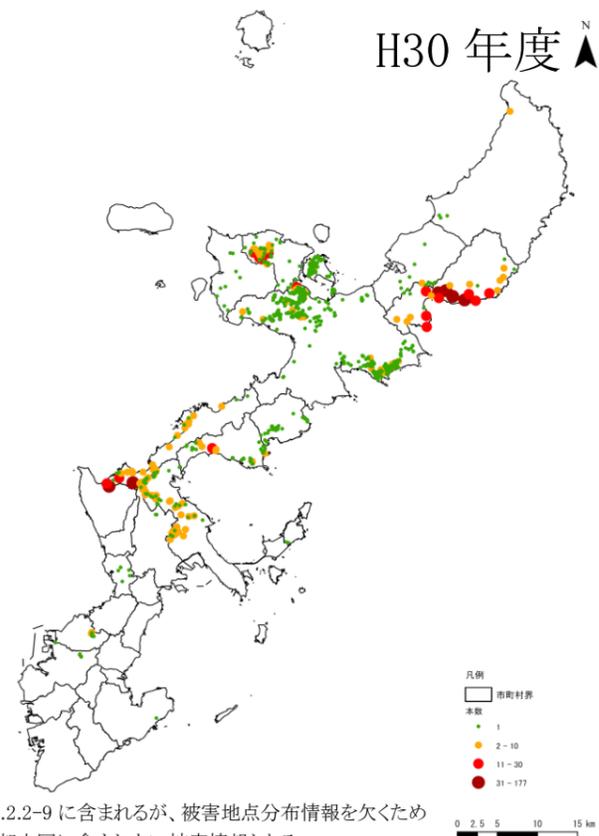
市町村別にみると（図Ⅱ.2.2-9）、伊江村で平成 18 年以來の被害が令和元年度に確認されている。また、宜野座村、金武町、読谷村、北谷町、南大東村で被害材積量の増加傾向が見られており、今後の推移に留意する必要がある。今帰仁村、恩納村、沖縄市、北中城村、南城市では減少傾向であった。

被害個体数の分布をみると（図Ⅱ.2.2-10）、宜野座村と金武町の境界付近で増加傾向が見られることから今後の拡大傾向に留意する必要がある。東村では西側に拡大傾向が見られることから、大宜味村側（微害地域）に拡大しないかを十分留意する必要がある。また恩納村南部では、激害状況の嘉手納弾薬庫周辺から北上してきている傾向が見られることから、今後の拡大状況に十分留意する必要がある。今帰仁村では、近年の本部地域（本部町・今帰仁村）での被害減少傾向にも関わらず、平成 30 年度に一部激害地が残されていたが、今年度は本部地域全体で収束傾向となった。恩納村の中部地域や南城市でも減少傾向が見られる。

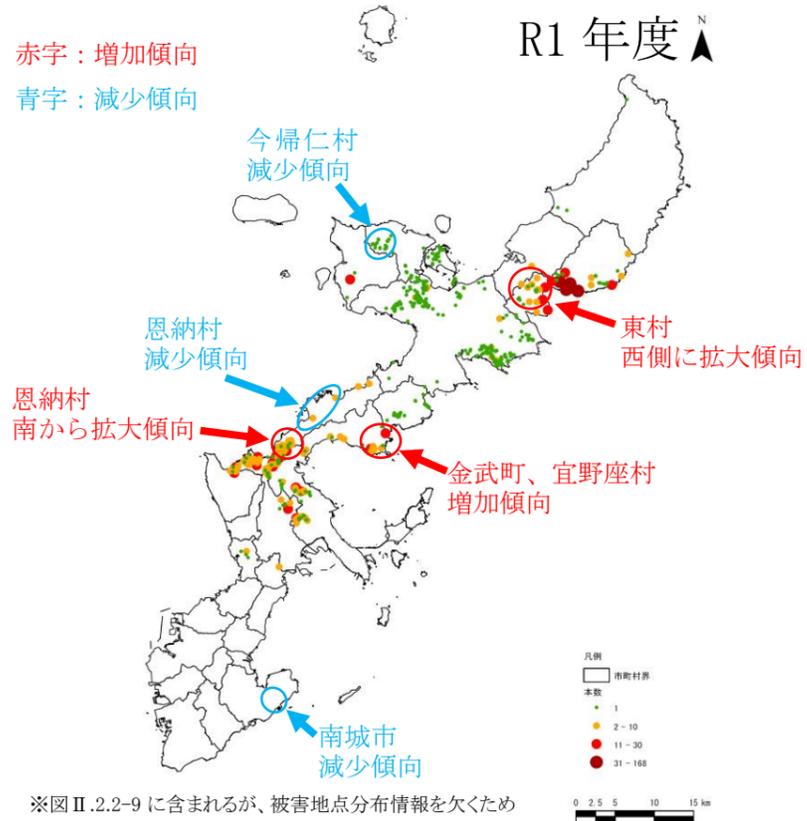
北部地域の被害分布をみると（図Ⅱ.2.2-11）、今年度は宜名真地区、与那地区などで突発的な被害が発生しており、安波・高江地区でも北上傾向が見られた。また、東村の西側では被害の拡大傾向が見られ、一部は大宜味村内まで広がっていた。国頭村、大宜味村において被害材積量としては大きな増加傾向は見られないが、被害分布の拡大傾向や突発的な被害が確認されていることから、今後の急激な被害拡大を阻止するために十分に留意する必要がある。



図Ⅱ.2.2-9 松くい虫被害材積量の変化（上：H30、下：R1）
（市町村調査）

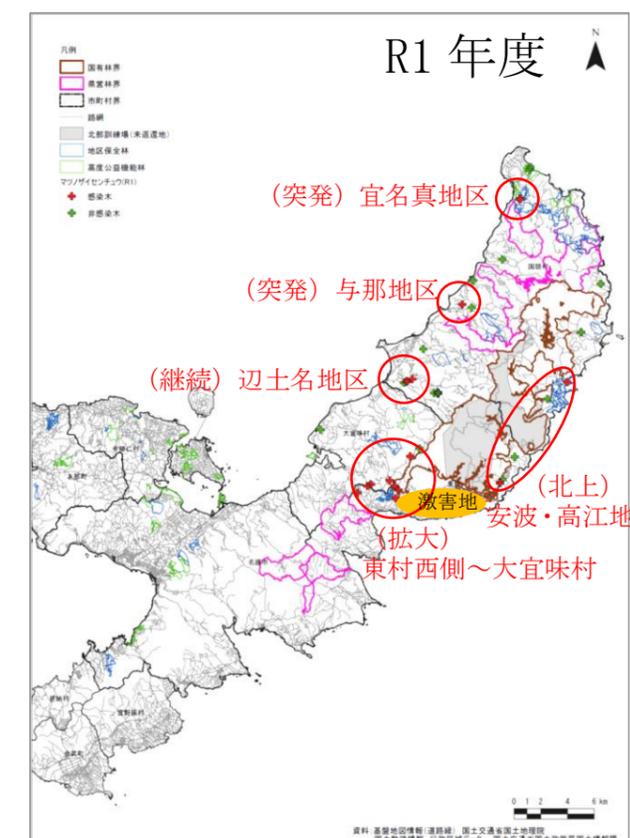
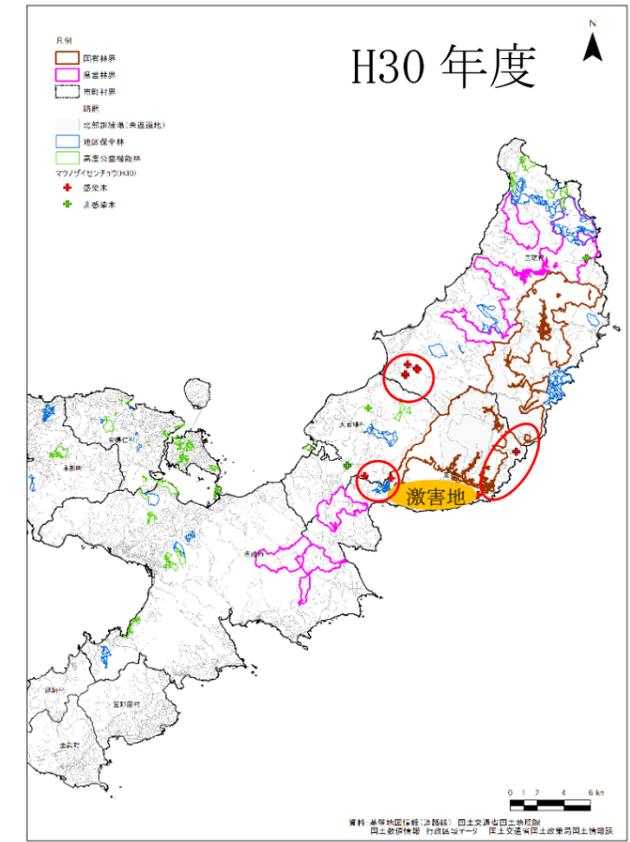


※図Ⅱ.2.2-9に含まれるが、被害地点分布情報を欠くために一部本図に含まれない被害情報もある。



※図Ⅱ.2.2-9に含まれるが、被害地点分布情報を欠くために一部本図に含まれない被害情報もある。

図Ⅱ.2.2-10 松くい虫被害個体数の分布の変化（上：H30、下：R1）
（市町村調査）



図Ⅱ.2.2-11 北部地域の松くい虫被害個体の分布の変化（上：H30、下：R1）
（本業務調査）

